

工大橋

呑川（のみかわ）は世田谷区桜新町を水源とし、途中、柿の木坂支流、駒沢支流、九品仏川、湧き水等を合流し、目黒区、大田区と流れる川である。（以前、野美川、石川と呼ばれているところもあった。）

都立大方面から『目黒区みどりの散歩道 呑川・自由が丘コース』を下流に向かい歩いてくると東京工業大学の地域内に入る。そこには目黒区立十一中学校の運動施設[100m走路]などもあり、その地下は新宿区落合水再生センターからの高度処理水が流れているところでもある。

進んで行くと東急目黒線、東急大井町線の[呑川橋梁]が見える。その線路の下には地下トンネル「呑川本流緑道工大橋通路」があり、ここを潜ると『工大橋』に出る。（ここはまだ目黒区）。

呑川は今まで暗渠であったが、ここから川の流れ（開渠部）が見える。（ここまでは復元水路が少しあるが、本流・支流とも暗渠。各々[緑道]となっており整備されている。）

開渠になった説明が『清流復活掲示板』に書いてある。

工大橋の川の開渠部の所にゴムのカーテンが見えるが、これは[防臭ゴムシート]で下水道管内の下水道臭を外部に拡散させないために設営されている。

現在の工大橋の所には昔『水神橋』と呼ばれる橋があった。右岸にすぐ[九品仏緑道]があり、約20m行くと、通称「緑が丘弁財天」がある。それが『水神橋』の名の由来と考えられる。

次の境橋まで約230mあるが右岸は目黒区、左岸は東京工業大学のグランド沿い途中まで目黒区で、その後大田区となる境界区域地点がある。右岸は次の『島畑橋』まで依然目黒区である。

写真

人道橋（旧一本橋）

石川台中学校の手前の石川公園（右岸）の近くにある人道橋。

右の写真は 1951年（昭和27年）作製の 橋で 一本橋と呼ばれていた、ただ人だけが渡れる橋であった。現在の橋は 橋長9.9m、有効幅長1.6mの橋だが、橋名のプレートはない。この辺の方は 人道橋と呼んでいるが正式名は『三十八号橋』である。

写真

柳橋 と 石川橋

『柳橋』と『石川橋』は隣接しており、右岸には[中原幹線取水口（排水施設）]がある。

この施設は上流地で集中豪雨がおき一気に水位が上がると下流の水害の主因となることがあった為、1982年 中原街道地下に設けたトンネルを通して、多摩川丸子橋上流地点へと放流させるバイパス水路施設を作った。 それにより洪水は減少した。

中原街道が呑川を渡る所に『石川橋』がある。 呑川がこの付近では石川とも呼ばれていたこともあった。 石川橋左岸中原街道わきに[石橋供養塔]があるが、もともと橋は土橋だったが、洪水のたびに流された為、1774（安永3）年、石橋に架け替えられた。 その便宜を喜び建てられたのだが交通安全のためだけに設けられた供養塔はめずらしい。 雪ヶ谷村、円長寺の日善が供養導師をつとめ、浄心以下5名のものが浄財を出しあって供養塔を建立した。

清流復活掲示板 もある。

中原街道は元々、江戸と相州を結ぶ主要街道であった。

徳川家康もこの街道を通り江戸に入ったと言われているが、その後東海道が整備されると、参勤交代等の公用の役割は特別の場合を除きなくなり、明治時代まで、脇街道として物資の輸送等で賑わっていた。 しかし道幅が狭く、大正期になり地元有力者や住民らの努力によって、この起伏を平坦にする改修に着手、大正十二年（1923年）に完成した。 この時作られた、[街道改修記念碑]が洗足池のところにある。

昭和十年五月（1935年）には丸子橋が完成、順次道幅も広げられ現在の道路になった。

名前の由来は江戸時代に江戸城虎ノ門と平塚の中原御殿（将軍の別荘）を結ぶ道だった事に由来するが、三田二本榎猿町を通ることから『猿町街道』、相模国に抜けるから『相州街道』、平塚で生産されたお酢を運ぶ『お酢街道』とも呼ばれていた。

尚地元では、長原を通るから『ナガッパラ街道』とも言っていた。

写真

一ノ橋 と 二之橋

大田区に入ってから呑川は開渠となっているが、例外としてこの『一ノ橋』と『二之橋』の間は暗渠になっており、そこには[一之橋児童公園]がある。

橋名の書き方で『一ノ橋』の “の” はカタカナの “ノ” で、『二之橋』の “の” は漢字の “之” となっている。 その先は東急池上線の鉄道橋である。左に行くと石川台駅（1927年開業）、右に行くと雪谷大塚駅（1923年開業）である。

写真

7-5 呑川に架かる橋の名前の由来

子どもたちの呑川に対する質問の中で橋の名前の由来の問い合わせは多い。実際 呑川の橋の名前は浄国橋、夫婦橋、道々橋など いかにもいわくありげな橋の名もあるが、橋の名前の由来を記入した資料は殆どない。

一方 雪が谷地区、久が原・仲池上地区の橋の大部分は耕地整理事業で大正末期の呑川の流れを直線化した際に建設された橋が大部分であり、また清水橋から下流の橋も昭和 10 年に完工した新呑川の開削の際に建設されたように、明治期からの橋は少なく呑川に架かる橋の多くは大正末期から昭和初期に建設され、比較的最近建設されているものが多いがそれは架設場所の字名を橋の名前にしたものが多い。なお字名記載の地図は「東京府編入頃の池上町」地図（大田区の文化財所収による）による。また西蒲田地区の上堰橋から馬引橋の間の橋名の由来については西蒲田地区の地元紙「かまにし」46号（平成24年12月1日発行）で7名の編集委員の調査結果が報告されている。地区外のものが、それ以上の調査をできるはずはないので、同紙の了解を得て、同紙を利用させていただきました。（*印は池上町史に記録）

そこで断定的に書けるものは少ないが、推測を入れて上流から書くと次の通りであろうか。

東急大井町線・目黒線

工大橋 東京工業大学に近いからか。

境橋 大森区と目黒区の境？

島畑橋 *字名か

島本橋 不明

柳橋 不明 ただ今この橋の右岸たもとにきれいな柳の木がある。

石川橋 中原街道

*中原街道に古くからかけられていた橋で、石川は新編武蔵風土記稿（以下 記稿という）にもこのあたりの呑川の呼び名として記載されるから石川に架かる橋の意味であろう

一之橋 *主要道路の中原街道から下流一番目の橋だから？

二之橋 *同じく中原街道から下流二番目の橋だから？

宮前橋 *左岸先方に雪が谷八幡神社があるためか

山下橋 *耕地整理事業による改修工事以前は右岸の日下山の直下も流れていて明治44年の地図にもそのあたりに橋が記入されており、当時から山下橋と呼ばれていたか？

西の橋 *西の字名はある。

雪の橋 *全く不明

居村橋 *居村の字名はある。なお「居村」とは江戸時代の村役場があった場所という。

円長寺橋 右手道沿いに円長寺がある

鶴の橋 *二つ下流側の鷹の橋とともに江戸時代から開けていた雪が谷地区に常識的には鶴、鷹がいたとは考えにくく、昭和2年の建設当時の橋の命名者が遊び心で付けたと考えるのが妥当ではないか。はっきり命名の由来がわかる資料の発見が望まれる。

水神橋 *右手300M先に水神の森の湧水源があるによるか

鷹の橋 *鶴の橋での記載に同じ

谷中橋 *字名か

東橋 *字名か

境橋 *雪が谷村と道々橋村の境を示していたか

新幹線・横須賀線 鉄橋

芹ヶ谷橋 *字名か

本村橋 *字名か

道々橋 *池上町史（池上町が1931年編纂）の「大字道々橋」の項の冒頭に

本村は元池上村の一部なりしも、寛政以前已に分離して現在の一村をなせりと。伝説によれば、池上より本村に通ずる途中呑川の流れありて橋梁を架す。此の橋梁修繕に際し

負担の関係より池上村と紛擾^{ふんじょう}を起し遂に独立して一村をなしたるよりドドの詰り橋の問題より独立せし為ドド橋、即ち道々橋と称するとある。しかし普通は「ドドの詰り」でなく「トド詰り」であり、それから「ドウドウ」とするのは無理があるのではないか。一方先祖が江戸時代以前から住まれている近くに住むNさんは道々橋の上で馬が動かなくなるとき「ドウドウ」と馬に声をかけたら歩き出したので「ドウドウ橋」から「ドド橋」になったと言われる。

久根橋 不明

八幡橋 *八幡神社に由来することは間違いないが、左岸の子安八幡神社か右岸の久が原八幡神社東・西かはわからない。

仲之橋 *字名か

根方橋 *不明

長栄橋 *本門寺は正しくは長栄山本門寺といい、その本門寺へ行く道に架かる古くから橋なので長栄橋としたか？

北之橋 *左岸一帯を北町と言っていた#

池上橋 第二京浜国道

戦争中飛行機の滑走路も兼ねられるとして建設された二国が呑川に架かる地点は池上なので池上橋にしたか。

久崎橋 *右手先に久崎という字はある#

谷築橋 *字名か

鶴林橋 *昭和2年の架設当時は南橋と呼ばれていて付近の字名に南がある。それが昭和?年ごろ鶴林橋に変わる。近くに本門寺三山の一つ大坊本行寺の開祖池上宗仲の第七百遠忌事業として鶴林殿が建てられた（1991年）のでその際変更されたのかもしれない。

稲荷橋 *左岸先 本門寺の森の麓に稲荷社があつてか

霊山橋 *池上本門寺の正面の参道の橋でそう呼ばれたのであろう。

妙見橋 *左岸に本門寺の一堂・妙見堂がある。

養源寺橋 *橋の前には養源寺がある。

浄国橋 *新編武蔵風土記稿にも記載され、その名義のゆへあるべきに似たれども、今伝を伝えずと。また破損の時は公より修理ありというから、幕府にとっても重要な橋だったのだろう。ただ近くに住むAさんは近くに浄国寺というお寺があったという。

堤方橋 池上通り

新編武蔵風土記稿には堤方村があり、字名でも堤方がある。

一本橋 *不明

上堰橋 上堰橋は昭和初期までの地形図では確認できないが、昭和11年の「大森区詳細図」以降の地図には登場するのでその間にできたのでしょうか、上堰橋の名称から近くに堰があったと思われるが地元の人に聞いても堰のことを知っている人には出会えなかった、と「かまにし」にあります。

日蓮橋 この辺りから本門寺周辺の高台が望めることから名付けたのでしょうか、昭和10年代、橋のそばに「日蓮湯」とう銭湯もあった、とのこと。

若宮橋 *名前から付近に社があったことから付けられた名だと考えられるが、若宮について資料もなく、地元の方々にあたってはわかりませんでした。ただ記稿の堤方村の項に「若宮八幡社」が村の南にあり、とあります。

双流橋 この双流橋から上流の上堰橋にかけて呑川の中に大森方面に分流するため約400mにわたり中土手があり、2つの流れがあったからとしている。双流橋の先で呑川本流は大きく南(右)に曲り、大森方面の流れは直進して、現在の道路からはっきり読み取れる。

大平橋 大正期の付近の地名は大字蒲田字大平耕地といい、ここから名付けられたと考えられるとある。

山野橋 「かまにし」によれば明治14年の測量図で確認でき古くから農産物の運搬に利用されたと確認でき、山野は西蒲田四丁目の古い地名とある。

馬引橋 「かまにし」によれば、明治39年の地形図でこの位置に確認で、古くから農産物の運搬に使われ荷駄の往来もあったことから名付けられたのでしょうかとあります。

JR 東海道線・京浜東北線 鉄橋

宮之橋 不明

おなりぼし
御成橋 御成とは普通將軍の来ることをいうが、そのような記録があるのであろうか。まさか全くの根拠もなく付けたとは考えにくい。

あやめぼし
菖蒲橋 この橋の左岸、蒲田小学校の隣に菖蒲園があり、東京の名所になっていた。

仲之橋 不明

柳橋 不明

だんじょうぼし
弾正橋 この橋の左先方に後北条氏の有力家臣だった行方弾正なめかだんじょうの屋敷があった。弾正の討ち死に後その跡地に円頓寺が建立され弾正の墓・供養とが建てられたことによる

京浜急行線 高架

夫婦橋 記稿の北蒲田村と蒲田新宿村の項にそれぞれこの二つの村の境に架すと記載されているから同じ橋だ。ただ北蒲田村の項では女夫橋と記す。また蒲田新宿村では呑川に架すとしているが、北蒲田村では用水掘に架すとある。従って二つの流れに架かっていたから夫婦橋とされたと考えるのは納得できる。江戸時代、武家は武士とその妻との感覚で夫婦という感覚は少なかったのではないかとすると周辺の住民が2つの流れに架かっている橋を夫婦橋と呼んだのは微笑ましく思える。

天神橋 この橋の右岸に北野神社がある。北野神社は天神様・菅原道真を祀っているなのでこの名前だろう。

清水橋 不明

宝来橋 不明

北糶谷橋 この辺り住所は北糶谷である

八幡橋 左岸の子安八幡神社から由来しよう。

呑川新橋 産業道路

呑川新橋は産業道路の架かるが産業道路が旧呑川に架かる下川橋の一つ下流に呑川橋があったので呑川新橋としたか。

東橋 不明

末広橋 不明

藤兵衛橋 現在の呑川がこの辺りに開削される以前はこの辺りは伊藤藤兵衛が開削した藤兵衛掘があり、それを引き継いだものだろう。

旭橋 断定的なことは言えないが、この橋に架かる橋の道路の右手先方の羽田旭町から取ったか。この橋は呑川最下流の橋で真東を向いているので旭としたか。

河口

旧呑川の橋 「昭和初期の大田区 地図」による

神戸橋 記稿の麴屋村・下袋村の項にあり

かえらずばし
不帰橋

鷹橋

下川橋 今の産業道路に架す橋

呑川橋

潮見橋

なお記稿の東大森村、西大森村、北大森村の項に呑川に架かる橋として彌五右衛門橋、座頭橋がある。

参考資料

- | | | |
|-----------------|-----------------|-------------|
| 1 新編武蔵風土記稿 | 江戸幕府 | 1830 |
| 2 池上町史 | 池上町 | 1931 |
| 3 大田区土木概要 改訂版 | 大田区土木課 | 1962. 3 |
| 4 かまにし 46号 | 地域力推進蒲田西地区委員会発行 | 2012. 12. 1 |
| 5 大田区の文化財 地図編 1 | 東京市編入頃の池上町 | |

以上